

看護業務実態調査の報告

発表者 沢谷 ゆき江

看護部 業務委員会

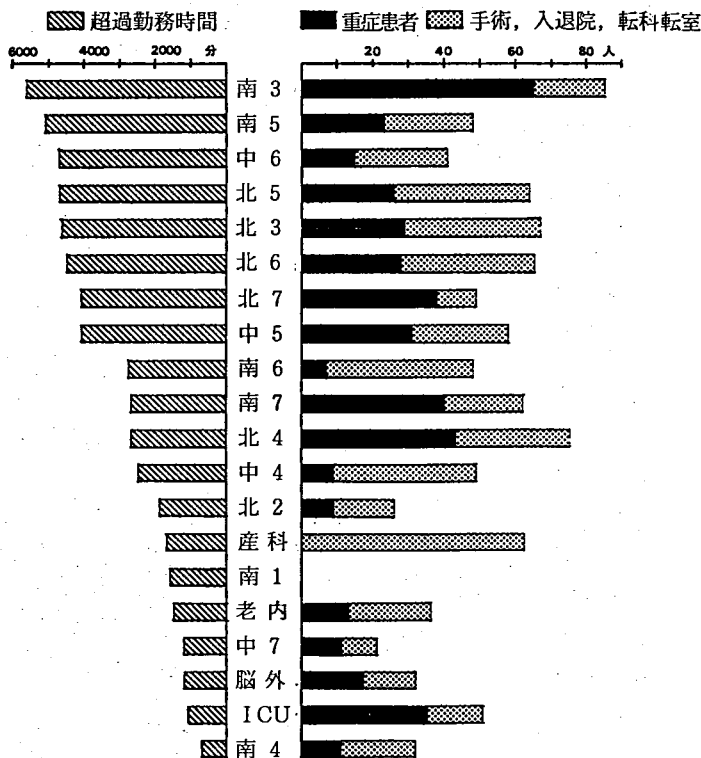
《実態調査の目的》

重症患者に看護婦はどの位かかわっているか。看護婦は超過勤務時間にどのような業務をしているか。これらを踏まえ、業務改善への方向を探るために、実態調査し今後の資料とする。

1. 超過勤務の実態（病棟部門）

1) 看護単位別の超勤の総数と患者状況 <スライド. 1>

グラフ1. 看護単位別の超勤の総数と患者状況（1987. 3. 2～3. 8 延べ数）



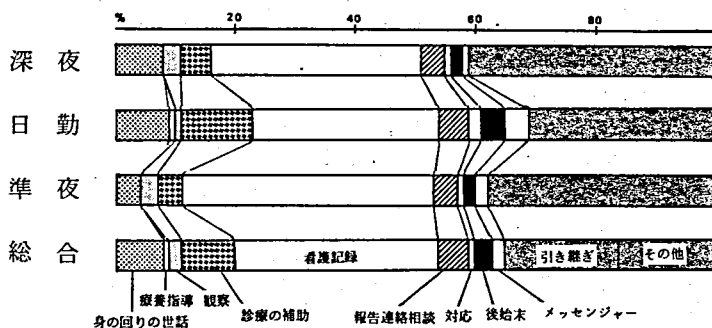
1. 期間中（7日間）20看護単位における総超過超勤時間は59,201分であり、一日平均 8,457分であった。
2. 一看護単位あたりの一日の平均は422.8で、時間によると約7時間であった。
3. 看護単位別では、多いところで5,634分、少ないところでは695分と差があった。
4. この看護単位別の超過勤務に影響すると思われる因子として、重症患者数をあげ超過勤務時間と比較してみたが顕著な相関は見られなかった。
5. その他の因子として手術件数、入退院数、転科転室数を加え、これらの病棟別患者状況と超

過勤時間を比較してみた。

- 患者状況による変数の多いところでは、過勤業務も多い傾向が見られる。
- しかし、過勤勤務時間と患者状況の相関関係を裏付けるためには、日別データが不足であった。
- また過勤勤務の関係因子を知るためには、過勤勤務帯のみの調査ではなく、その日の業務内容全体の調査が必要ながわかった。

2) 勤務帯別にみた過勤業務の比較 <スライド. 2>

グラフ 2. 勤務帯別にみた過勤勤務業務の比較



- 一日平均の過勤勤務時間は、深夜：19,713分/39人=72分、日勤：31,092分/123人=34分、準夜：8,396分/39人=31分であり、深夜に最も負担がかかっている。

それぞれの過勤勤務時間数を100として、業務内容を比較した。

- 診療の補助および身の回りの世話が日勤帯で多いことは予測どおりであった。
- 看護記録に要する時間は総合で19,956分=33.7%であり、全勤務帯において時間外での記録時間が多いことから、記録方法および業務内容の検討が今後の課題である。
- その多くの時間数が多いことに注目する。深夜帯ではその多くが引き継ぎ時間と思われるが、数値では示すことができなかった。

今後同様の調査を実施する際には、十分な調査項目の検討が必要である。

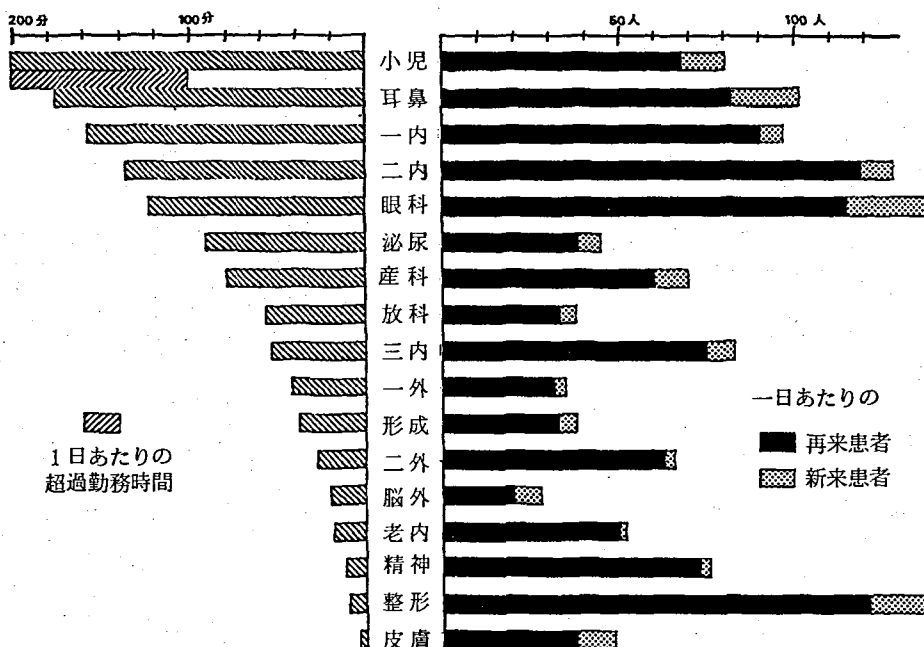
2. 過勤勤務の実態 (外来部門)

1)

- 期間中(7日間)19外来における総過勤勤務時間は7,055分であり、曜日別にみると、土曜日が1,583分と最も多く、次いで水曜日が1,398分であった。
- 業務別では、(1)診療事務が2,410分=34%、(2)物品準備、後始末が1,189分=17%、(3)環境整備が1,068分=15%であった。
- しかし、どんな業務が過勤勤務に影響しているかを知るには、その日全体の業務調査と必要であり、これは病棟業務調査と同様である。

2) 過勤勤務時間と患者数の関係 <スライド. 3>

グラフ3. 外来における超勤時間数と患者数の関係（1987. 3. 2～3. 8）



1. 各外来一日あたりの患者数と超勤勤務時間を比較した。（各外来診療日のデータを集計し、診療日一日あたりのデータを比較）
2. 眼科，第二内科，耳鼻科，第一内科，小児科は患者数が多く，超勤勤務時間も上位をしめている。
3. しかし，整形外科では患者数が121人／日と最も多いが，超勤勤務時間は10分／人／日と少ない。
4. また小児科では患者数は80人であるが，超勤勤務時間は300分と膨大である。
5. 上記の件を考察するには，各科ごとの一日の勤務者数および外来診療日以外の活用等の調査データが必要であった。

3. 重症者看護の実態

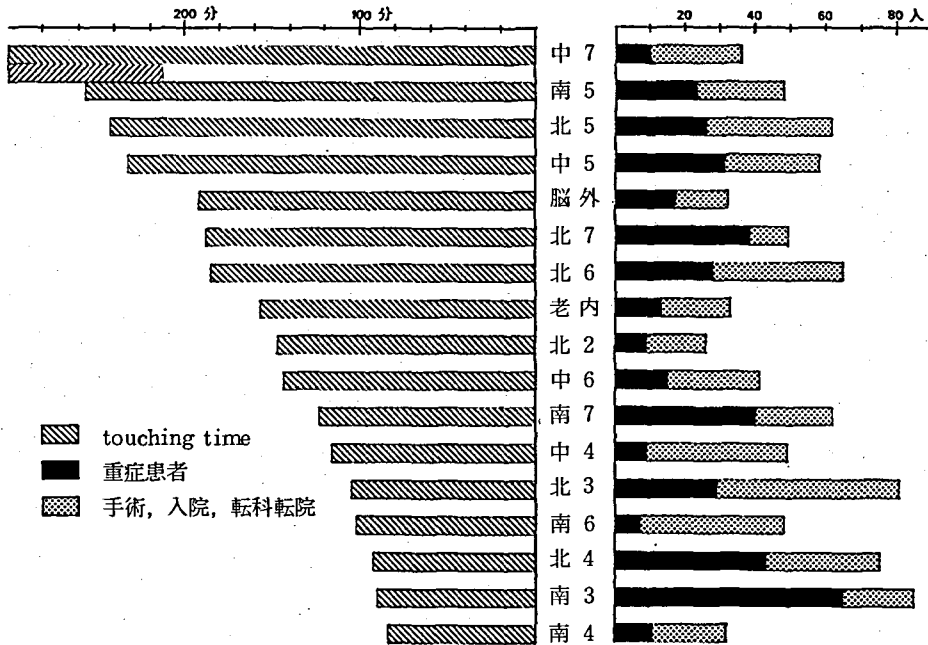
重症患者のベッドサイドで看護行為を行った時間 (touching time) を調査した。

1) 重症患者 touching time と重症患者数等との関係 <スライド. 4>

1. 期間中 (7日間) の重症患者は延べ414人であった。
2. touching time 総数は64,345分であり，一日あたり9,192分，時間にすると153時間。患者ひとりに対しては156分/日 (2.6時間) であった。
3. 重症患者ひとりに対する touching time と各看護単位の重症患者数および手術件数，入退院数，転科転室数の関係をみた。
4. 中7では重症患者等が少ない分，タッチした時間が多く，南3では重症患者数等が多いため，タッチする時間が少なかったのかもしれない。

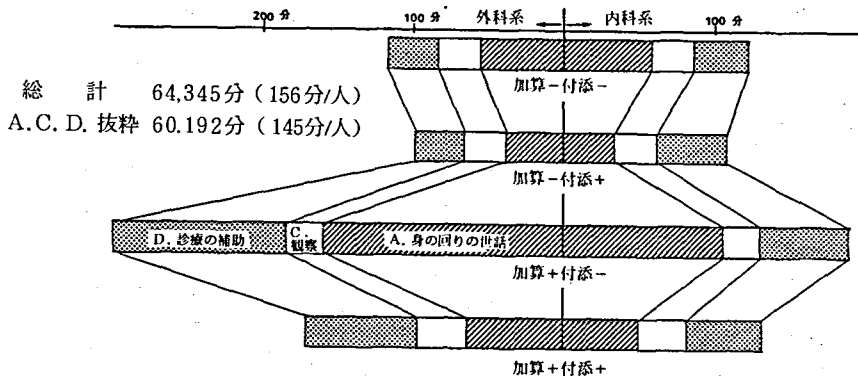
逆相関が見えそうであるが、このデータでは結論できない。

グラフ4. 重症患者 touching time と重症患者数等の関係 (1987. 3. 2 ~ 3. 8)



2) 重症看護加算の有無と付添いの有無との関係 <スライド. 5 >

グラフ5. 重症看護加算の有無と付添いの有無との関係 (患者一人に対する touching time)



1. 全調査項目のうち身の回りの世話, 観察, 診療の補助の3項目の和が60,192分, 94%を締めたので, この3項目の業務内容で比較した。
2. 加算有りは (平均200分) 加算無し (平均120分) 1.7倍であった。
3. 加算の有無にかかわらず, 付添いがある場合での touching time が少なくなっている。
4. 特に, 身の回りの世話においては, 付添い無しが平均88分に対して, 付添い有りでは46分で約半分の時間であった。
5. 勤務帯別での集計は, データーに不明確な点が多く考察出来なかった。